
異世界にやってきました！

野々村イチゴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界にやって来ました！

【Nコード】

N6812Y

【作者名】

野々村イチゴ

【あらすじ】

ある日。ベッドの上でシエスタを満喫中の少年ヒロキ

なぜかわけのわからん女神に異世界に飛ばされてしまった

そこは魔王が数え切れないほどいる死亡フラグ満載の世界

魔王を倒す前に生き残れるのか？

今年の旅が始まる

『目覚めなさい』

声が聞こえる

『目覚めなさい、異世界の住人よ』

まだねみーつつの

『目を・・・』

「あと30分くらい寝かしてくれ」

まったく 朝から誰だよ俺は朝は弱いんだぜ

『目覚めなさい異なる所からきたる人間よ』

・・・

『起きなさい』

・・・

『起きな・・・』

「しつけえ」

『つつつー・・・』

・・・

『起きろゴルアアア！！！！！！！！』

「ひっひい！？」

『いつまで寝とんじゃー！このタコー！さっさと立てい！』

ななななななんだあー？

コイツはいつたい！？

『目覚めたのですね異世界の人間よ』

「いや、まだ中二病になった覚えはないっす」

『いやいや、そうじゃなくってww、アンタの世界じゃないのここは』

「はい？」

と口にはだしたが 確かにここは俺の部屋じゃねえな

しかも目の前にはいかにも 私は女神でえーすみたいな服装をしている女性がたっていたり

あんた誰だよ こごごだよ 俺はねみーんだよ

『私は女神』 『私は女神』

二回言った！！

俺はなんかめんどくさくなったので

「おお、女神よ私めになんのご用でありますよう？」 (棒読み)

『なんかウザいから説明てきとつにしちやうよっ。』

「ちゃんと事の説明をしてください!！」

はあ 面倒なことになった。

『あなたは这个世界でやるべき事をしてください』

「えっと・・・つまり俺に勇者的ポジションに立てと??？」

『おっ! 話わかってるうー』

『そういう事だからがんばってねー』

まてまてまてまて。

「この世界の説明をしてほしいんだが」

まずは情報だ え?さらわれてる感じなのにやる気マンマンだって?
勘弁してくれよ

『この世界は魔王的ポジションの奴が数え切れないほどいるの』

「まてい! 世界救えねえよ もう無理だよ! 終わりだよ」

『まあまあ 魔王には悪い奴といい奴がいて、悪いのだけ懲らしめてちよーだい』

いい魔王って・・・勇者30を思い出すな

『とりあえずそんなところだから』

「一人でですか？」

『そうだけど・・・イヤ？』

ひとりでは無謀というものだろうに

『もしよかったら仲間をアナタの世界から呼び寄せてあげるわよ』

「仲間？」

『そう！仲間、知り合いで名前を言いなさい、ポンってここに召還しちゃうから』

仲間か、やっぱり職業とか考えたほうがイイのかな？

『職業はその人に合ったものをこちらで一人三つ用意するわ。だからアナタの世界の友人の特技や能力をしっかりと理解しているとパーティーが充実するわ』

ドラ エか！

一人三つか そのうちのどれかを選ばせればイイのか

『そうそう、職業はおなじみなもの他に村娘や変態、詐欺師、娼婦、カメラ使いとかもできるわよ』

「いらないます！」

口クでもない職で魔王に挑むのわバカだろうに。

まずは自分の職業か

『身のこなしが比較的軽いアナタはこの三つね』

シーフ 身のこなしMAX 基本短剣やライトソード スキルはあまり戦闘では役にたたない

ストライカー 身のこなしがよき格闘家 基本グローブ系の武器か爪 戦闘では連打や雷をまとったアッパーや属性をもった攻撃ができる

ライトソード（軽剣士） 軽めの剣を装備し多彩な技で敵を攪乱魔法もちよつと使えるが あなたの知力しだい

シーフは戦闘で使えないな

ストライカーは魅力だが元剣道部としてはライトソードの方が使いやすいだろうが

しかしな、やはりスピードと手数ของストライカーかそれとも華麗な技のライトソードか？

迷うなあ……

『ライトソードにしとけば？ありきたりでいいんじゃない？』

ありきたりと言つのもやだ

というわけで

「ストライカーをお願いします」

『はいね まあいいけど。』

『それより他の子は？』

そういえばまだ決めてないな・・・

とりあえず仲良しの・・・

『ユウノスケ略してユウノね他は』

略すなよ・・・他は剣道部から一人

前衛が欲しいな・・・

多少な傷でも大丈夫な奴は・・・いた（笑）

部活引退してから太るの嫌と言い、毎日筋トレしてる奴（笑）

「カズキつてのを」

『わかったわ、あと一人ね』

やっぱり4人なんだ

魔法を使えそうな奴はと・・・

カズキは勉強できるが足遅いしな魔法使いタイプではないしユウノは問題外

後輩から取るか

「マコトください」（ブリトラのコンビニ風に）

『マコトだけですか』

おっノツてきやがった

「以上でいいわ」

『かしこまりましたー って本当にイイのかい!?!』

「まあ奴等ならなんとかかなりそうだしな」

俺は一応信頼している

『じゃあちよつと待っててね』

くく30分後くく

『彼らにもサツサと説明を済ましてきたわ。ついでに職業も決まったわよ』

いちいちウインクしてくるこの女神

そして彼の友人たち

カズキ ガーディアンナイト

つまり守ってくれる。重装備で戦斧や槍など長物系

『彼、魔法の適正があったみたいよ、けど回復魔法と接近魔法しか使えないから』

ユウノ ハンター

基本弓での長・中距離攻撃だがナイフや手斧といった武器もそこそこ扱える

マコト バトルメイジ

武器での戦闘もできる魔法つかい、だが守備が低く重装備ができない

魔法全般つかえる

ヒロキ ストライカー

(省略)

『つてな感じよ』

「あの装備は？」

『あっちにいたら自動で装備してるわ。』

『そういうわけががんばってきてねー』アレ？意外とこのメンバーでいけんじゃね？

こいつら選んでよかったわ。

さてはて行くとしますか

『じゃ、送ってあげるわよー』

『バシーラ』

「ちょwwwそれDrarry」

（シュン！）ワープしますた

『はあー、めんどろな人間だったわ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6812y/>

異世界にやって来ました！

2011年11月20日18時59分発行